

(別表3-3)2002 年度から 2023 年度における経年分析結果(水質)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質				
			河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↓	↓	↓	↓	—
[2]	HCB	↓	↓	↓	↓	└
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	↓	—	↓
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	↓	↓	↓	—

(注1) 経年分析は、単回帰分析等の統計学的手法を用いて実施した。手法の詳細は、資料 2-2 の 190～192 ページ及び 435 ページ～438 ページを参照(以下の表においても同様)。

(注2) 表中で用いた記号はそれぞれ次の内容を意味する(以下の表においても同様)。

- ↓、↑ : 経年的な濃度の減少傾向又は増加傾向が統計的に有意と判定されたもの
 └ : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
 ↘ : 検出率が経年的に減少していることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
 — : 経年的な濃度の減少傾向(又は増加傾向)が統計的に有意であるとは判定されないもの
 —* : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値(又は高値)であることが統計的に有意であるとは判定されないもの
 —** : 検出率が経年的に減少している(又は増加している)ことが統計的に有意であるとは判定されないもの

(注3) ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-4)2002 年度から 2023 年度における経年分析結果(底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	底質				
			河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↓	↓	↓	↓	↓
[2]	HCB	↓	↓	—	↓	↓
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	—	↓	↓
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	—	—	↓	—

(注) ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-5)2002 年度から 2022 年度における経年分析結果(生物及び大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物		大気
		貝類	魚類	温暖期
[1]	総 PCB	↓	↓	↓
[2]	HCB	—	—	—
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	—**	—	↓
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	—**	↘	↓
[17]	ペンタクロロベンゼン	↘	—*	—
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン			↑ (—) 注5

(注1) 鳥類の 2013 年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がないため統計的な分析の対象外とした。

(注2) 生物のうち、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注3) 大気のうち、総 PCB 及び HCB は 2003 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)、ペルフルオロオクタン酸(PFOA)及びは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2007 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンは 2015 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注4) □ は経年分析を行っていない。

(注5) ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンは、POPs 条約において 2015 年に附属書 A(廃絶)に、2017 年に附属書 C(非意図的放出の削減)にそれぞれ追加されている。2015 年度から 2023 年度における経年分析では増加傾向が統計的に有意と判定されたが、2017 年度から 2023 年度における経年分析では増加傾向及び減少傾向のいずれもが統計的に有意であるとは判定されなかった。